



キャンパス・コンソーシアム函館
合同公開講座

函館学 2016

第3回講座
講義資料

函館のシビックプライドをデザインする

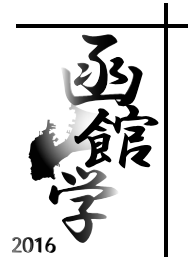
木村 健一

公立はこだて未来大学 教授

日時：平成 28 年 9 月 24 日（土）午後 1:30 ～ 3:00

会場：公立はこだて未来大学 講堂

主催：キャンパス・コンソーシアム函館



○講師略歴

公立はこだて未来大学 教授

木村 健一 (きむら けんいち)


東京藝術大学美術学部彫刻科卒業後、ぴあ編集部、国立宮城高専情報デザイン学科助教授を経て、2000年4月開学時に本学准教授に着任、2009年より現職。

○函館学 2016

函館のシビックプライドをデザインする

～講演内容～

「市電」・「函館山ロープウェイ」・「五稜郭」などの全国にも名の知られた函館の観光名所や近年完成した「はこだてアリーナ」を対象としたプロジェクトを通して取り組んできた実践的なデザインの教育と研究が、地元にある資源をいかに活かし、新しい価値を生み出していくことにつながっていくのかについてお話します。



キャンパス・コンソーシアム函館
合同公開講座 函館学 2016
 ～ 新幹線時代を迎えて ～

**演題：函館のシビックプライドを
 デザインする**

講師：公立はこだて未来大学 木村 健一 教授

日時：平成28年9月24日（土） 会場：公立はこだて未来大学


函館のシビックプライドをデザインする

シビックプライド（都市に対する誇りや愛着）を視覚言語（シンボルマークやロゴタイプ・ロゴマーク、色や書体等々）を用いて目に見える形に表現します。

「市電」・「函館山ロープウェイ」・「五稜郭」などの全国にも名の知られた函館の観光名所や近年完成した「はこだてアリーナ」を対象としたプロジェクトを通して取り組んできた実践的なデザインの教育と研究が、地元にある資源をいかに活かし、新しい価値を生み出していくことにつながっていくのかについてお話します。


公立はこだて未来大学 教授 木村健一

2



1957年 宮城県涌谷町に生まれる
 1982年 東京藝術大学美術学部彫刻科卒業
 1982年 ぴあ編集部アート・デザイン分野担当
 1989年 東北工科情報専門学校環境デザイン学科専任講師
 1995年 宮城工業高等専門学校情報デザイン学科助教授
 2000年 公立はこだて未来大学システム情報科学部助教授
 2009年 公立はこだて未来大学システム情報科学部教授

- 函館市観光基本計画策定委員会 委員長(～2015)
- 函館市生活交通協議会 会長(～2015)
- 函館市観光アドバイザー会議 座長(～2015)
- 函館市美しいまちづくり検討会 座長(2014)
- 北斗市観光振興計画策定委員会 委員長(2013)
- 北斗市地域創生戦略会議 座長(2015)
- 函館ガーデンシティ構想懇話会 座長(2016)
- 函館市電ICASMAP グラフィックデザイン アートディレクター(2011～)
- 市立函館博物館企画展グラフィックデザイン アートディレクター(2011～)
- 木古内町新幹線駅デザインコンセプト策定委員会 委員長(2012)
- 函館市電100周年 マーク・ロゴ アートディレクター(2013)
- 五稜郭築造150年祭グラフィックデザイン アートディレクター(2014)
- 函館駅前電停、五稜郭公園前電停 サイン計画 アートディレクター(2014～)
- 函館山ロープウェイ マーク・ロゴ、サイン計画 アートディレクター(2015)
- 道南いさりび鉄道マーク・ロゴクリエイティブ・ディレクター(2015)
- 函館アリーナ マーク・ロゴ、パブリックアート クリエイティブ・ディレクター(2015)
- 函館競馬場120周年 マーク・ロゴ アートディレクター(2016)




街のシンボル（象徴）→言葉とイメージ

杜の都 = 仙台
加賀百万石 = 金沢

函館 = 夜景
青森 = ねぶた
弘前 = 桜
八戸 = 種差海岸

青函圏観光都市会議より



シンボルマーク 英: symbol mark

家系、会社、団体、個人などを象徴する意匠、マークのこと。スポーツの国際大会などの行事のマスコットもこの一種にあたる。

植物を使ったもの

- 菊 - 皇室・宮家
- 桐 - 日本国政府、内閣
- 桜 - 日本国政府
- バラ - 茨城県章
(茨城の古名「茨荆」(ばら)から)

動物を使ったもの

- 鷹 - アメリカ合衆国
- 双頭の鷹 - ドイツ
- 鷹の羽 - 日本の武家に流行した家紋
- ゾウ - アメリカの共和党「知識と力」
- ロバ - アメリカの民主党「家庭的で誠実」
- 雄鶏 - フランス
- カンガルーとエミュー - オーストラリア
- ヤタガラス - サッカー日本代表

文字を使ったもの

- 「群」の文字を「君」と「羊」に分解して配置した群馬県章、
- 「神」の文字を図案化した神奈川県章、
- カタカナの「ア」を図案化した秋田県章、
- 四つの「マ」を組み合わせた島根県章、
- 「シガ」の文字を図案化した滋賀県章、
- ひらがなの「と」を図案化した富山県章、
- 「み」を図案化した宮城県章、
- 通信省に由来し、諸説がある郵便の干など。

地形を使ったもの

- 青森県の地形を図案化した青森県章、
- 静岡県の地形と富士山を図案化した静岡県章など。

その他の文物を使ったもの

- 太閤秀吉の馬印「千成組草」を図案化した大阪府章、
- 古墳から出土した勾玉を図案化した埼玉県章など。

図形を使ったもの

- 「和」をイメージさせる円、
- 「最先端」をイメージさせる鋭角、
- 「安定」をイメージさせる二等辺三角形など。



なぜ、シンボルマークは大切なのか？

シンボルマークは多くの情報が凝縮された視覚言語であり、思想や行動が色や形の中に凝縮されている。企業や事業の存在証明であり、有効に機能させると、多くの人々に強い印象を与えることができる。そのため、シンボルマークを基本要素とし、数多くの応用・展開・組み合わせ図案にイメージの「ぶれ」が生じないように、全体をデザインする必要がある。

→ V.I. visual identity

基本要素 basic element

- 図や文字のデザイン
- 配置規則
- 配色規則



応用・展開 application

- 基本要素のイメージを維持し、様々な媒体に適用する規則
- 様々な媒体に適応できるようにする配置規則
- 様々な媒体に適応できるようにする配色規則



函館競馬場開設 120 周年ロゴマークの展開

	1 マーク+CMHK ロゴタイプ・グレースケール	2 マーク+CMHK ロゴタイプ・グレースケール	3 マーク+CMHK	4 マーク・グレースケール ロゴタイプ・グレースケール	5 マーク・グレースケール ロゴタイプ・グレースケール	6 マーク・グレースケール
A マーク+ロゴ3行	A1			A4		
B マーク+ロゴ2行	B1	B2		B4		
C マーク+ロゴ2行	C1	C2		C4	C3	
D マーク+ロゴ1行	D1	D2		D4	D5	D6
E マークのみ			E3			E6



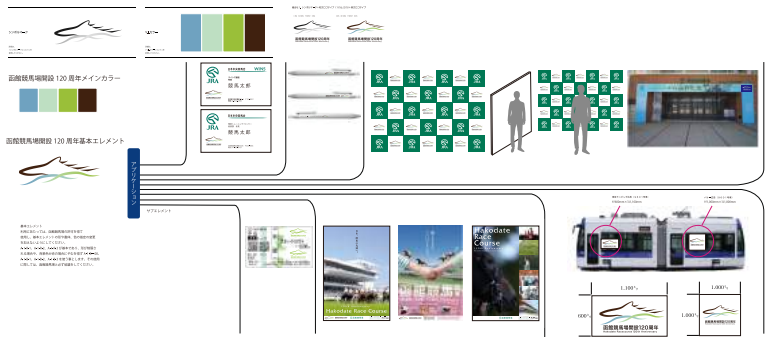
函館競馬場開設 120 周年 デザインツリー → V.I. visual identity のデザイン

基本要素 basic element

- 図や文字のデザイン
- 配置規則
- 配色規則

応用・展開 application

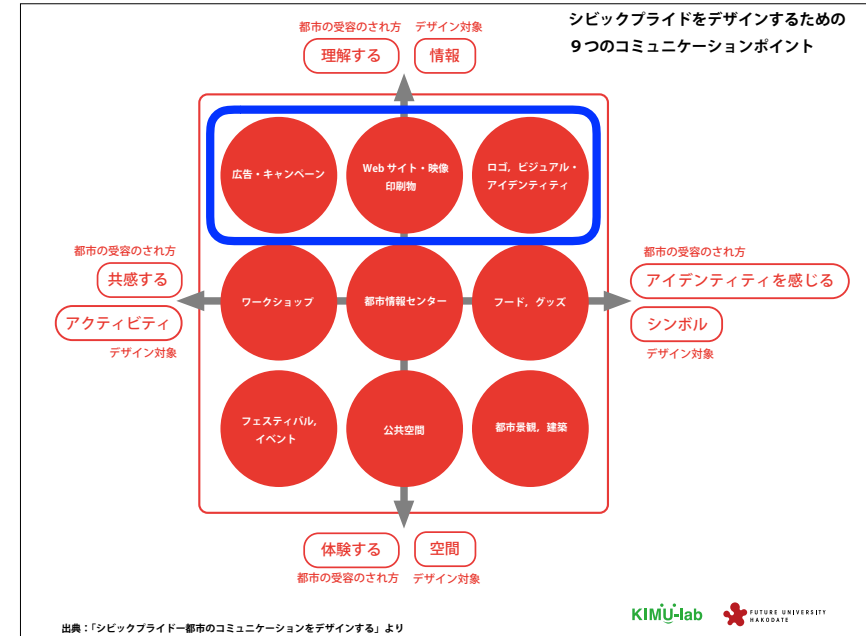
- 基本要素のイメージを維持し、様々な媒体に適用する規則
- 様々な媒体に適応できるようにする配置規則
- 様々な媒体に適応できるようにする配色規則



デザインは空虚な思いつきではない

デザインは空虚な思いつきではなく、学術論文をはじめ文学や美術などと同様、いかに多くの先行事例や研究を知るかが重要である。そこから、どのように自身の文脈に取り込み、独自の表現にしているかが重要な課題となる。

『デザインのオリジナル性 武蔵野美術大学教授・デザイン評論家 柏木博』
朝日新聞2015年10月4日朝刊



3つの視点で函館のシビックプライドを考える

1) 函館の街並（市電沿線）は最大の観光資源

エキゾチックな街・函館のブランドイメージは、すべて街並に由来している。
夜景、裏夜景も、市場も市街地への人口・業務集積に支えられた資源である。
→街並が崩壊すれば、函館市の観光地としての価値は雲散霧消する。

2) 函館の街並は急速に崩壊しつつある

そもそも市全体の人口が全国でも有数のペースで減少している。
にも関わらず、環状道路以北への人口移転・機能移転が止まらない。
意匠も高さも不統一なビルが、空き地の間に点在する状況が年々進行中。

3) 目指すべき方向は2つ

- 巨視的に：過去の方角を180度覆し、市街地への人口と機能の再集中を始めよ。
- 微視的に：市街地において各種都市計画規制を厳しく実施し、景観価値を向上
 - 建築物の高さ制限→スカイラインに統一感を
 - 地区計画と景観ガイドラインの設定→建築デザインと色調に統一感を
 - 特区指定→放置不動産活用促進

【函館市の美しい街並み原則】

- 函館市の「美しい街並み」は、「歴史・文化環境、都市・自然環境」および「生活環境」を包含している。
- 「美しい街並み」とは、それらの環境の中で時代を超えて継承・進化してきた「質」である。
- 特に世代を超えて引き継ぐべき質、つまりこれを「Hakodate DNA」という。

美しいまちづくり協議会からのデザイン提言

1) 西部地区

メインコンセプト：DNAを継承した進化と保存の共存
コンセプトワード：異国情緒と懐かしさが感性に響く街
開港の歴史と文化息づく函館発祥の地
住み続けて磨かれる新しいまち景観への進化

2) 駅前・大門地区

メインコンセプト：オールドニュー〜人々の繋がりとふれあい〜
コンセプトワード：市民と観光客がふれあう函館のエントランス
どこか懐かしい薫りがする多世代間の交流の場
生活・交通・経済のクロスエリア

3) 本町・五稜郭地区

メインコンセプト：クロスタウン〜人々の暮らしを繋ぐ拠点〜
コンセプトワード：人・交通・情報が交錯する函館の重心
ビジネス・商業・歓楽が共存する賑わいのまち
文化と学びの回廊
民間の活力を感じる街

4) 湯の川地区

メインコンセプト：温泉街ルネサンス
コンセプトワード：浴衣でそぞろ歩く温泉街
やすらぎのいやし空間
はこだてリゾート

デジタルアーカイブの活用と展開

AD:木村健一 D:宮武志保, 蝦名奏子, 齋田萌, 北田彩香, 奥村美奈代

2-1 | 2010年 文化と編纂

2-2 | 市立函館博物館の企画展・特別展における活用と展開

2-2-1 | 2012年 函館の麦酒 歴史・産業・意匠

2-2-2 | 2012年 写された幕末・明治の函館

2-2-3 | 2013年 新島襄と幕末の箱館

2-2-4 | 2015年 千島樺太交換条約とアイヌ

2-3 | グラフィックデザイン+メディアミックス

2-3-1 | 2014年 五稜郭築造と箱館戦争+五稜郭築造150年祭

2-3-2 | 2014年 リトファスゾイレ



函館圏文化芸術活用事業「文化と編纂」

平成21年11月～平成22年3月上旬



函館の画像資料コレクションのデジタルアーカイブ化の取り組みは、調査研究を含め2007年から行われてきましたが、その活用方法や市民をはじめとする文化芸術活動団体等への啓発事業については端緒にいたばかりです。

本事業では、「文化と編纂」をテーマに、講演会や展覧会、ワークショップ等を通して、文化芸術の次世代への継承の重要性をふまえ、担い手である市民を対象にした各種事業を行い、地域全体の文化力の向上を目指します。

主催：函館圏文化芸術活用事業「文化と編纂」実行委員会
共催：文化庁、北海道地域文化芸術振興プラン推進事業実行委員会
後援：函館市、函館市教育委員会、公立ほこだて未来大学、
函館マルチメディア推進協議会

市立函館博物館企画展のグラフィックデザイン

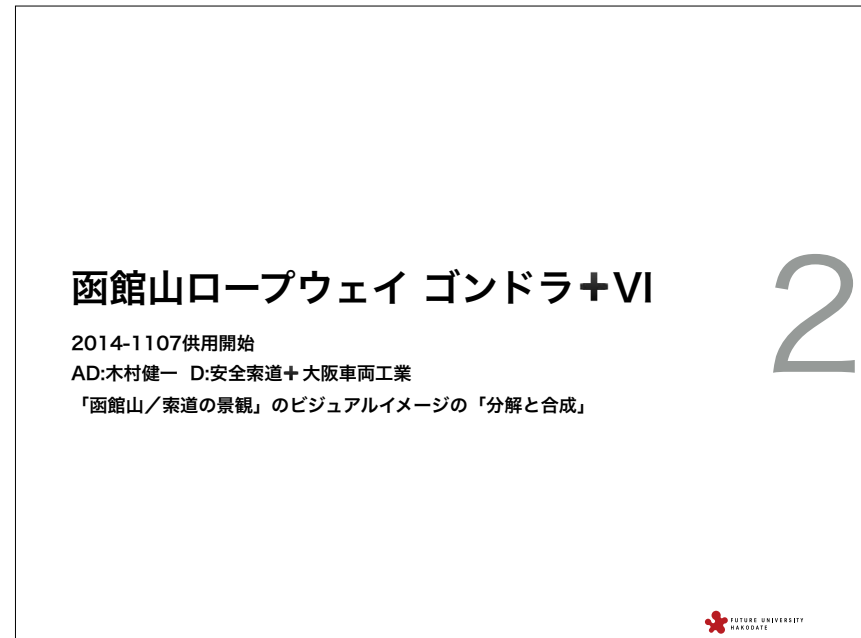
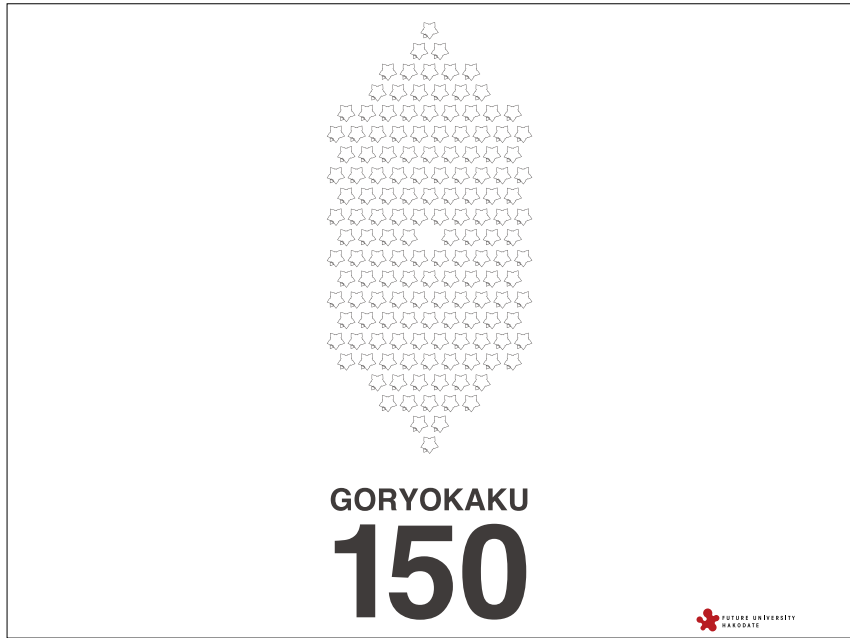
平成24年～平成25年

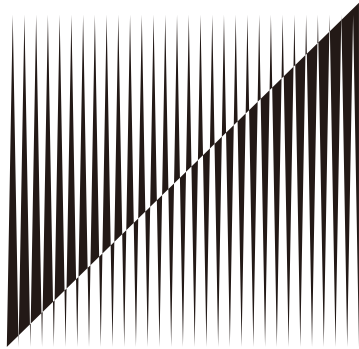


函館の画像資料コレクションのデジタルアーカイブ化の取り組みは、調査研究を含め2007年から行われてきましたが、その活用方法や市民をはじめとする文化芸術活動団体等への啓発事業については端緒にいたばかりです。

本事業では、「文化と編纂」をテーマに、講演会や展覧会、ワークショップ等を通して、文化芸術の次世代への継承の重要性をふまえ、担い手である市民を対象にした各種事業を行い、地域全体の文化力の向上を目指します。







函館山ロープウェイ シンボルマーク

函館山の変化に富む美しい自然環境と都市景観を結ぶ索道を象徴する。山頂と山麓を快適で安全安心に結ぶ索道は、景観を楽しむ沢山のひとと人を結ぶコミュニケーションの絆であることを表している。索道用ワイヤーと函館山の萌いつる春の木々の銀色（芽吹いたばかりの木々の梢を覆う毛状の銀色の棘）に見えるようにした。

瞬間的に現れるこの銀色は、函館山の多様な植物が一斉に芽吹く瞬間であり、多様な動植物の生まれいずる瞬間の美しさを象徴している。



函館市路面電車「函館駅前電停」

2014-1128供用開始

設計:西村浩+ワークビジョンズ GD:木村健一

「古くて新しい」

造船技術と建築技術

片持ち式庇と波の形態+明治期の書体を改刻した秀英体明朝の使用

3



函館市電のデザイン

古くて新しい

造船技術と建築技術

片持ち式庇と波の形状+デジタル版の秀英体初号（明治期の書体を改刻）

函館で培われた熟練の
造船技術

×

現代建築における最先端の
エンジニアリング





記念ポスター

一日乗車券

ICAS MAP

方向標・案内案

百周年記念メインカラー

百周年記念基本エレメント

関連デザインの車内展覧会

アプリケーション (缶バッチ、ハンカチ等のノベルティ)

車体への掲出

FUTURE UNIVERSITY HAKODATE

車両番号用書体は、車両の前後や側面に掲げられる番号の書体である。基本的には手書きで作られており、曲線には消らかさがある。

車両番号用書体はデジタルフォント化されたものの、その曲線の消らかさにはまだ検討の余地がある。また、視認性も検討対象で、遠くからでも判別できるようにする工夫も必要だ。

はじめに、書体を紙に印刷し、気になる点やエレメントをチェックしていった。同時に、改刻していく点を書き込んでいった。特に、「3」の折り返し部分が左下方向に伸びている点が気になっていた。

エレメントの形のバリエーションをスケッチした。上のスケッチでは、「1」「2」「4」「7」に共通するエレメントのバリエーションを検討している。

元の書体を分析し、書体のベースライン(文字の底辺の位置)とエクソサイト(小文字のxの高さ)を設定した。このラインを基準に書体を修正する。

上図では、数字の3のバランスを検討している。数字一つひとつを調整するだけでなく、書体全体のバランスにも気を配らねばならない。

FUTURE UNIVERSITY HAKODATE

アイデア1
折り返しの方向を、水平左向きに修正してみた。

アイデア2
現行書体とアイデア1の間をとってみたもの。中途半端ではある。

現行書体
3の折り返しの方向が、左下方向を向いている。この向きが不自然さが、修正対象になった。

アイデア3
折り返しの方向を、さらに左下に向けてみた。ここまで下に向けるとバランスが悪い。

FUTURE UNIVERSITY HAKODATE

はこだてアリーナ サイン計画

2015-0801 供用開始
建築設計:大建設、T&P建築設計事務所

4

サイン計画 AD:原田泰 D:蝦名奏子, 原田研究室, 木村研究室
パブリックアート CD:木村健一,AD:原田泰
D:蝦名奏子, 原田研究室, 木村研究室, Fabガール
川嶋稔夫のアイデアを発端に, 金子鷗亭(松前町出身の文化勲章受
章者)の書道作品をモチーフにしたパブリックアートの制作を行った。



hakodate arena



函館アリーナのシンボルマーク

1. 円 演 縁 「アリーナの形→活用→交流」の横の流れ
2. 演者(競技者) / 観客 / 支援者 スポーツ振興の関係者が手を取り合う構図 = 3つの輪の繋がり
3. 利用者 / 見守る人 / 地域という場の多重性, 波及効果 = 三本の線

これらの三重のメッセージが形に描かれている。



